

yamabuki i 通信

yamabuki は、『小学校でのパソコン授業』の URL より
パソコン室から 不定期 発行

No. 6 8
平成 19 年 10 月 22 日
情報教育アドバイザー
広田 さち子

パソコンと「ローマ字」

パソコンで、キーボードのアルファベットを用いてカナを作ることを、「ローマ字入力」と言っていますが、果たしてこれは<ローマ字>と同じでしょうか？

実は、これは<ローマ字>に似ていますが、違うものです。

国語のローマ字は、書いた文字を「音」にするためのものです。ですから、書かれた文字(アルファベット)の並びそのものが意味を持ちます。

一方、パソコンの文字入力で使う表記は、仮名文字を作るための方便です。カナができてしまえば、どういう文字(アルファベット)の並びを使ったかは意味を持ちません。言ってみれば、目的のカナさえ作れば、文字の使い方はどうでもいいのです。

「沼津」を変換で出すには numadu と入力しなくてはなりませんが、ローマ字では numazu です。ローマ字は「音」なので、「ず」と「づ」の区別がないためです。また、発音するときは、「TI」と「CHI」は別の音(おん)ですが、文字入力の場合は、いずれも「ち」となります。「ち」の文字を作るのに、どちらの表記を使ったかは、「ち」になった時点でわからなくなります。

キーボードのキートップには大文字しか書かれていないのに画面には小文字が現れますが、国語では、英語表記に倣って、大文字と小文字の使い方が決まっています。

この、似て非なるものに、同じ「ローマ字」という呼称を使うことに、私はたいへん抵抗を感じます。ですから、パソコンの授業で使う50音表に、「ローマ字」という言葉はありません。

文字入力表記を「ローマ字」だと考えると、国語でローマ字を習うときの混乱の元ですし、「ローマ字入力は4年生の国語でローマ字を習ってから」とか、「パソコンで早くからローマ字入力をするから、国語のローマ字の授業を早めよう」というふうにも思われてもおかしくないのです。これでは、たぶん、余計に混乱します。

パソコンでの文字入力表記は、「ローマ字入力」とは言うものの、「ローマ字」ではありません。

理想は、国語で「ローマ字」を習うまでに、指が文字入力を覚えてしまうことです。つまり、頭の中で表記(どのアルファベットを使うか)を考えるまでもなく、画面にカナが表示されるようになることです。こうなっていれば、混乱することはありません。

現実には、無理ですが。

パソコン室の50音表は、素早く仮名文字を表示することを念頭において作られています。